令和３年度　《学校経営計画》

名張市立箕曲小学校　　学校長　前田　かおり

赤目中学校区教育目標　　**一人ひとりが生き生きと輝く児童・生徒の育成**

めざす児童・生徒像　　**なかまと繋がりあって、学ぶ楽しさや自己有用感を育むことができる児童・生徒**

１　学校教育目標

自ら学び、人間性豊かな、たくましい　箕曲の子

２　めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	○ 明日も来たいと思う魅力ある学校 ○ 希望に満ちた、同僚性のある学校 ○ 保護者・地域から信頼され、保護者・地域と共にある学校
○児童・生徒像	○ 進んで学ぶ子　○ やさしい子　○たくましい子
○教職員像	○ 子ども理解を深め、温かみと厳しさをもった指導力のある教職員 ○ 互いに研鑽し合い、授業力の向上に取り組む教職員 ○ 教職員どうし、保護者・地域とつながりあう教職員
○保護者・地域像	○ 学校・地域とつながり、「共育」を進める保護者 ○ 学校・保護者とつながり、「郷育」を進める地域

３　学校の現状	本年度の改善方策
○児童は全体的に明るく素直で、活動や行事等に協力して取り組むことができる。その反面、積極性や表現力に課題の見られる児童が多い。昨年度は、縦割り班活動や異学年交流の機会が少なかったが、休憩時間には学年・男女問わず活動する姿が見られる。 ○学ぶ楽しさを実感できる授業づくり、基礎・基本の定着に向けた研究実践、相手を意識して話したり書いたりする学習活動等により、「授業は楽しくよくわかる」「話をよく聞き発表している」と答える児童の割合が高くなっている。 ○家庭での読書習慣には、依然として大きな課題がある。 ○自己有用感、自尊感情を高める取組の成果もあり、アンケートで「自分のことが好き」と肯定的に回答した児童の割合は高くなってきているが、一方で、不登校傾向の児童の存在が課題となっている。 ○体力測定結果では、体力・運動能力の向上がみられたが、投力・走力・敏捷性・瞬発力には課題が残る。 ○保護者は学校に対して好意的・協力的ではあるが、複雑な家庭環境や価値観の多様化傾向が、年々強く見られる。 ○「米づくり」の全校児童による体験活動への協力、「桃の郷構想」、安全サポートなど、地域の協力・支援が大きい。学校支援ボランティアの増員も図ることができた。	○児童の状況から、今子どもたちにつけたい力を検証し、学力や学びの質の向上に向けた指導・支援に取り組む。考えを伝え合う力・書く力の向上、家庭学習（読書を含む）の習慣化が図れるような取組を推進していく。 ○縦割り活動や異学年交流、地域・保護者との協働学習に取り組んだり、おしゃべりタイムの活用等を通して個々の資質・能力を認め育成したりすることで、自己有用感を高める。 ○共通理解のもと随所に「体つくり運動」を取り入れたり、外遊びの機会を増やしたりすることで体力の向上に努める。 ○職員間で各学級の子どもたちの状況を共有し、子ども理解を深めるとともに、全学年の児童を全職員で見ていくという意識のもと、学校として組織的な対応ができるよう努める。 ○郷土の教育資源を活かして、「人・もの・こと」との出会いや体験活動を取り入れた学習の充実を図る。 ○学校運営協議会を活用し、主体的な学校運営への参画を通して、子どもたちを地域で育む教育活動を進めていく。 ○教職員どうし、教職員と保護者･地域との間で、リーダーシップ･フォロアーシップの相互関係をつくっていく。 ○活気あふれた職員集団であるために、学校行事の精選を進めることで、時間外労働時間の縮減を中心とした働き方改革の推進に努める。

４　重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		30	元	2	3	
1	自ら学び考え表現する力と確かな学力を育成する。	◎	◎	◎	◎	
2	心身ともにたくましい子どもを育成する。	○	◎	◎	◎	
3	学校の組織力の向上と保護者・地域との連携を進める。	◎	◎	◎	◎	

５　令和３年度の重点目標

重点的な取組事項－１	自ら学び考え表現する力、確かな学力を育成する授業改善
Ａ　今年度の成果目標	
「授業は楽しく、よくわかる」「授業中話をよく聞き、発表する」と答える児童が８５％をめざす。	
Ｂ　目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	デジタル教科書等 ICT の効果的な活用方法、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修を行い、授業改善に努める。
②	「めあて」「課題」「発問」「子どもの言葉を生かした授業展開」「板書」「まとめ」「ふり返り」を大切にした授業づくりや理解に時間がかかる児童への手立てなど、特別支援教育の視点に立ったきめ細やかな指導を行う。
③	家庭の協力を得ながら、「こつこつ週間」の取組をもとに、家庭（自主）学習の習慣化を図る。家庭での読書習慣の重要性についての啓発に努め、読書環境の充実とともに、意識の高揚を図る。

重点的な取組事項－２	たくましい心と体づくり
Ａ　今年度の成果目標	
「自分のことが好き」と思える児童が８５％以上をめざす。	
Ｂ　目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	おしゃべりタイム等を活用し、児童理解に努める。異学年間の交流活動や交流学習を効果的に取り入れ、子どもどうしが認め合える機会を意図的に計画する。
②	ポジティブな行動支援により、望ましい行動に導く。
③	保護者との懇談・スクールカウンセラーや関係機関との連携に積極的に取り組み、学校が児童にとって、安心・安全な居場所となるように努める。

重点的な取組事項－３	保護者・地域、中学校と連携した「共育」「郷育」
Ａ　今年度の成果目標	
「学校は、保護者・地域と共に子どもを育てようとしている」・・・あてはまる９０％	
Ｂ　目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	学年・学校だよりやホームページによる発信に取り組む。
②	校内だけでなく、保護者・地域との「報告・連絡・相談」を大切にする。「人・もの・こと」と出会う活動や探求的な活動、地域・保護者との協働活動を学習にとり入れる。
③	学校運営協議会を活用し、学校支援の拡充に努め、地域･保護者と協働した教育活動を進める。

６　学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	１人当たりの月平均時間外労働	30 時間以下（30 時間以下の範囲）
	年 360 時間を超える時間外労働者数	０人　　（変更不可）
	月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数	０人　　（変更不可）
具体的な方策	○令和元年度に行った「学校行事･活動の見直し」をもとに、廃止・精選・縮小を進め、業務の削減を図る。 ○タイムカードによる在校時間の把握の徹底により、個々の意識改革を図る。 ○遅くとも 18 時 30 分には退校するよう互いに声かけをしながら業務を進める。	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	１人当たりの年間休暇取得日数	20 日以上（各学校で設定）
具体的な方策	○学校閉校日を夏季休業中に４日間、冬期休業中に３日間設定する。 ○休暇取得に対する個々の意識を高めると共に、休暇の取りやすい職場環境づくりを進める。	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	80%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	
	放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合	40%以上
具体的な方策	○定時退校日を月に全体として２日、個人として１日設定する。 ○スクールサポートスタッフを効果的に活用する。 ○会議資料の事前配布・ペーパーレス化を進める。	